

「第五次やまぐち高齢者プラン」の概要

策定に当たって

1 計画策定の趣旨

現行の「第四次やまぐち高齢者プラン」(H24～H26)を見直し、「第五次やまぐち高齢者プラン」を策定

2 計画の位置付け

県の高齢者施策を総合的、計画的に推進するための基本方針「老人福祉計画」(老人福祉法)と「介護保険事業支援計画」(介護保険法)を一体のものとして策定

3 市町計画との整合性の確保

県計画は広域的な観点から取り組むべき施策を定める

4 圏域の設定

保健・医療・福祉の連携を図る観点から、「保健医療計画」に定める保健医療圏と同一に設定

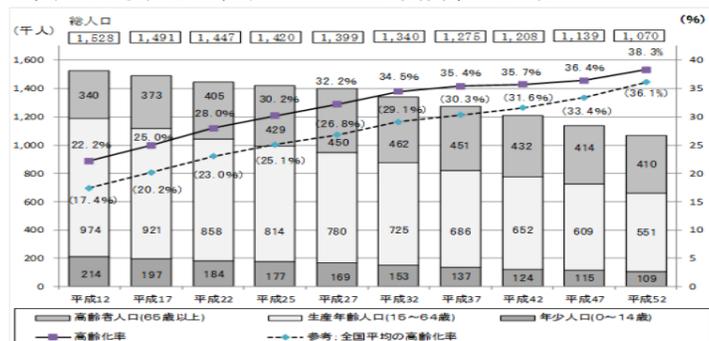
5 計画の期間

平成27年度～29年度までの3年間

第1章 高齢者を取り巻く現状と将来推計

1 高齢化の進行

全国よりも約10年早いペースで高齢化が進行



2 高齢者の状況

- 団塊の世代の高齢化
- 要支援・要介護認定者の増加
- 高齢単身世帯等の増加
- 認知症高齢者の増加 など

区分	平成26年度	平成29年度	伸び率
高齢者(65歳以上)数	440,811人	458,505人	4.0%
要支援・要介護認定者数	83,948人	94,949人	13.1%

3 高齢者施策(四次プラン)の進捗状況と課題

- 地域包括ケアの推進
- 在宅生活を支える体制の充実
- 人材の確保と資質の向上
- 介護サービスの充実
- 介護予防と認知症施策の推進
- シニアが活躍する地域づくりの推進

4 介護人材の需給推計

本県で将来必要となる介護人材の需要数・供給数を推計

介護職員数	①需要推計	②供給推計	介護職員の不足数(①-②)
2012年(H24)	23,276人	23,276人	-
2017年(H29)	30,535人	28,255人	2,280人
2020年(H32)	32,153人	29,647人	2,506人
2025年(H37)	34,416人	30,538人	3,878人

第2章 計画の基本目標

1 基本目標

『だれもが生涯にわたり、住み慣れた家庭や地域で、安心していきいきと暮らせる社会づくり』

2 計画推進の基本的方向

『地域包括ケアシステムの構築と高齢者が活躍できる地域社会の実現』

第3章 施策の具体的な展開

I 地域包括ケアシステムの構築

第1 地域包括ケアシステムの基盤強化

高齢者一人ひとりの状態やニーズに応じて、医療、介護、予防、住まい、生活支援サービスを切れ目なく提供する「地域包括ケアシステム」の基盤を強化
→ 地域包括支援センターの機能強化、地域ケア会議の推進 など

第2 介護サービスの充実

高齢者一人ひとりの介護ニーズに応じた介護サービスが提供されるよう、サービス提供体制を整備するとともに、利用者主体の体制づくりや介護サービスの質の向上に向けた取組を推進
→ 介護サービスの見込量と提供体制の整備、介護サービスの円滑な提供

《主な居宅サービス》

・今後も利用者が増加することが見込まれる。(単位:利用回数/月)

区分	平成25年度	平成29年度	伸び率
訪問介護	218,715	273,899	25.2%
通所介護	189,094	285,328	50.9%

(注)「通所介護」には、平成28年度から地域密着型サービスに移行する小規模な通所介護(定員18人以下)を含む。

《主な地域密着型サービス》

・今後も利用者が増加することが見込まれる。(単位:利用人数/月)

区分	平成25年度	平成29年度	伸び率
認知症対応型共同生活介護	2,384	2,790	17.0%
小規模多機能型居宅介護	1,035	1,729	67.1%
定期巡回・随時対応型訪問介護看護	13	302	2,223.1%

《施設サービス》

・介護老人福祉施設及び介護老人保健施設については、利用者が増加することが見込まれる。
・介護療養型医療施設については、平成29年度末をもって廃止される予定であることから、減少が見込まれる。(単位:利用人数/月)

区分	平成26年度	平成29年度	伸び率
介護老人福祉施設	7,211	8,090	12.2%
介護老人保健施設	4,853	5,058	4.2%
介護療養型医療施設	2,069	1,729	▲16.4%

(注)「介護老人福祉施設」には、利用定員29人以下の小規模なもの(地域密着型)を含む。

第3 在宅医療・介護連携の推進

高齢者の希望やニーズに応じて、医療機関や施設から在宅生活への移行、在宅生活の継続ができるよう、保健・医療・福祉等関係者の連携・協働による取組を推進

→ 在宅医療・介護に関する理解促進、在宅医療・介護提供体制の充実、関係者が連携した総合的な在宅医療・介護サービスの提供

第4 認知症施策の推進

認知症の人の意志が尊重され、できる限り住み慣れた地域のよい環境で自分らしく暮らし続けることができる地域を実現するよう、認知症の人やその家族の視点に立った支援の充実や環境・体制づくりを推進

→ 認知症に関する理解促進、予防対策の促進、本人・家族への支援と地域づくり など

第5 在宅生活を支える体制の充実と介護予防の推進

高齢者が尊厳を保ち在宅で安心・安全に暮らすことができるよう、高齢者一人ひとりの状態やニーズに応じた支援体制の充実・強化を促進

→ 在宅生活への支援、地域における支援の充実、健康づくりと介護予防の推進

第6 人材の確保と資質の向上

中長期的な視点に立って、質の高い人材を安定的に養成・確保するとともに、資質の向上や働きやすい環境づくりを推進

→ 福祉・介護人材の養成と確保、福祉・介護人材の資質の向上、労働環境・処遇の改善

II 高齢者が活躍できる地域社会の実現

第1 高齢者の社会参加の促進と就労に向けた支援

高齢者が、その豊かな知識や経験、技能等を活かし、積極的に社会に参加するよう、生涯現役社会の実現に向けた取組を推進

→ 高齢者の活力発揮による多様な社会参加の促進、就業機会の確保及び働く環境づくり

第4章 計画の推進・点検体制

山口県高齢者保健福祉推進会議等で計画の進捗状況を点検するなど、進行を管理

《数値目標の設定》

計画に基づく施策の着実な進行を図るため、新たな8指標を含め、20項目の数値目標を設定